



① 本殿 御祭神 五十猛命 (いたけるのみこと)



③ お猿石
猿の頭の形をしたこの石は、首より上の病に霊験が著しいと云われています。



② 祇園神社
御祭神 須佐男命 (すさのおのみこと)
境内南方の山中にあり、五十猛命の父神である須佐男命を主祭神としてお祀りしています。毎年旧暦6月7日の夜に祇園祭が行われます。



⑤ 割拝殿



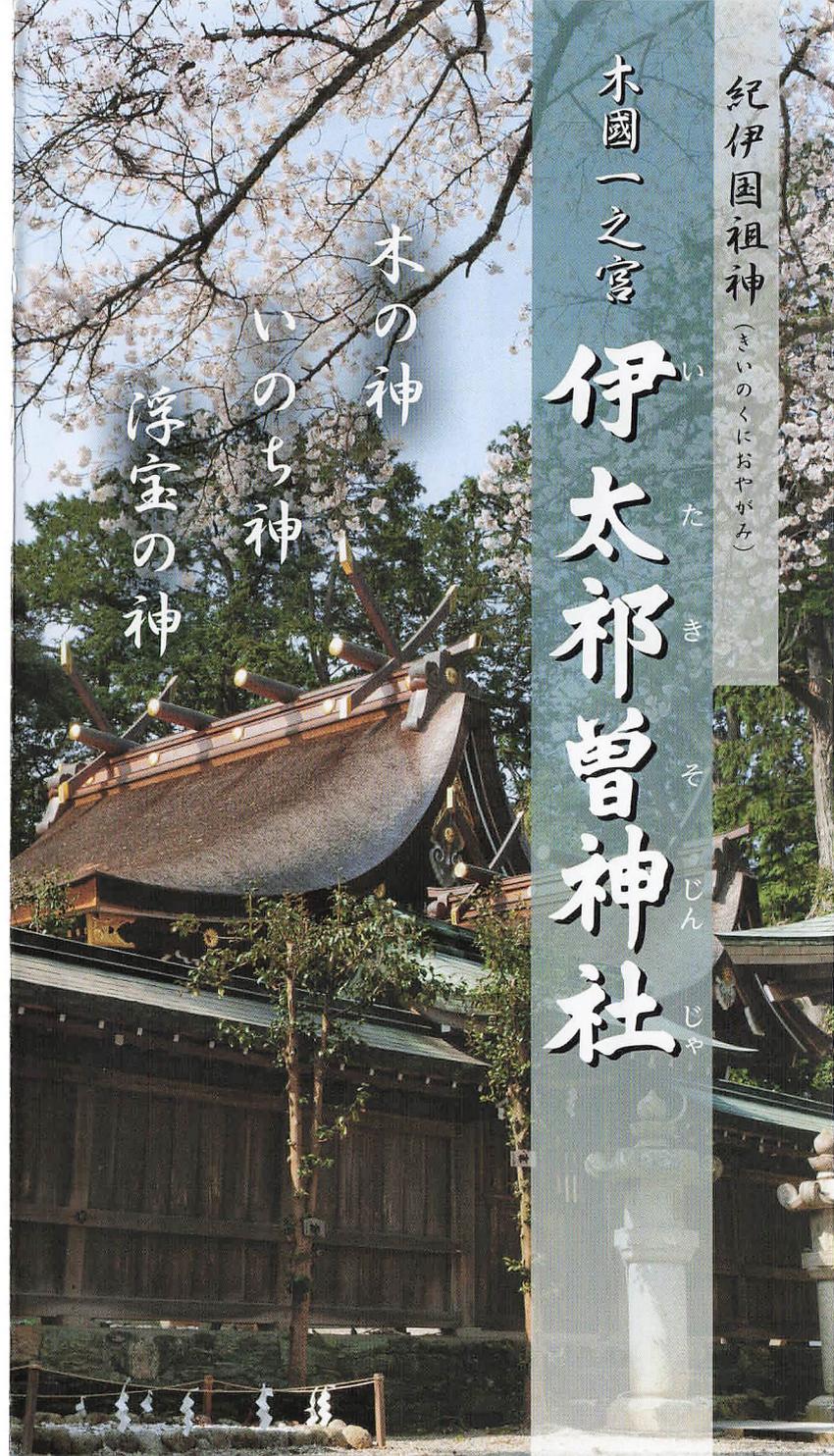
⑦ 氣生神社
毎年12月12日に例祭(氣神祭)が執り行われます。



④ 木の俵くぐり
大屋毘古神が木の俵を利用して大國主命を助けた神話にちなみ、この穴をくぐると災難を除けになると云われています。



⑥



伊太祁曾神社

紀伊国祖神 (きいのくにのおやがみ)

木國一之宮

木の神

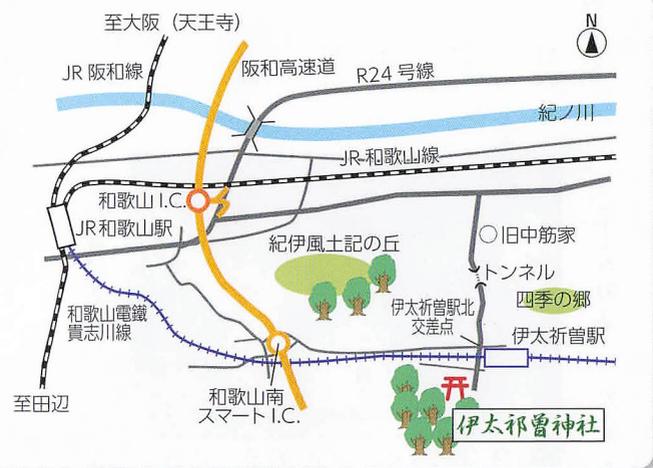
いのちの神

浮宝の神

祭礼

歳旦祭	1月1日8時	茅輪祭 本殿祭	7月31日11時
元始祭	1月3日8時	秋季皇霊祭選拜式	秋分の日10時
卯杖祭	1月15日10時	御井社祭	10月1日10時
紀元祭	2月11日10時	例祭 ※3	10月15日10時
祈年祭 ※1	2月19日11時	神嘗祭選拜式	10月17日10時
天長祭	2月23日10時	亥の森祭	旧暦10月初亥日11時
春季皇霊祭選拜式	春分の日10時	新嘗祭・大麻頒布始祭	11月23日11時
木祭り ※2	4月第1日曜11時	冬季祭	12月10日19時
昭和祭	4月29日10時	氣神祭・氣神講講社祭	12月12日10時
蛭子神社例祭	5月1日10時	大祓	12月31日16時
門宮祭	6月1日10時	除夜祭	12月31日17時
大祓	6月30日16時	月次祭	毎月1日9時
祇園祭	旧暦6月7日19時	月次祭 (奥宮)	毎月15日9時
夏季祭	7月10日19時		
茅輪祭 宵宮祭	7月30日18時		

※1 豊作祈願のお祭り
※2 木に感謝するお祭り
※3 神輿渡御、稚児行列が行われる。



大 阪 (JR天王寺) 関西空港 JR 阪和線 特急45分 JR 和歌山線 和歌山電鐵 貴志川線 20分 伊太祁曾駅 徒歩5分 伊太祁曾神社 カーナビ検索 0734780006 阪和高速和歌山南S.I.C.を出て最初の信号を左折

伊太祁曾神社

〒640-0361 和歌山市伊太祈曾 558
TEL 073-478-0006 FAX 073-478-0998
http://itakiso-jinja.net/



境内ご案内



⑨ 榎磐間戸神社



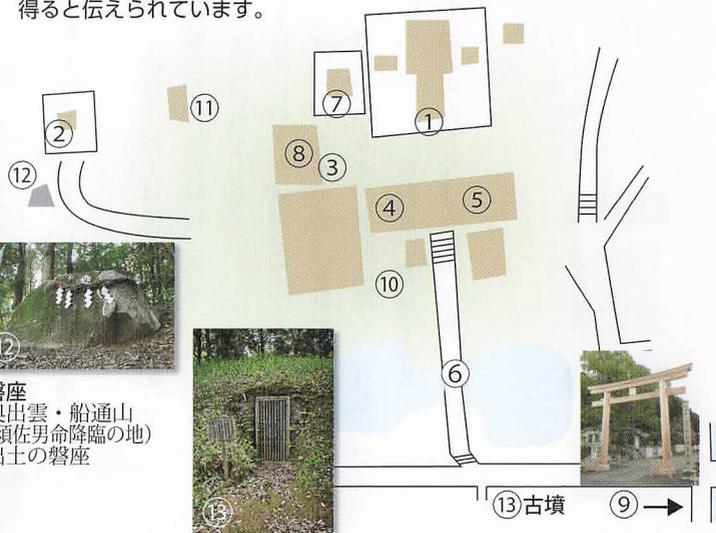
⑧ 蛭子神社
明治の神社合祀令によって、氏子地区である東西山東の各大字に祀られていた22の神社が合祀されています。



⑪ 御井社
境内山中の井戸より湧く水は、古来よりいのちの水と呼ばれてきました。病人に飲ませると活力を得ると伝えられています。



⑩ ご神木
昭和37年の落雷のため数年を経て枯れてしまいました。上部を伐採し木の面影を残し保存しています。



⑫ 磐座
奥出雲・船通山(須佐男命降臨の地)出土の磐座



⑬ 古墳

伊太祁曾神社のご案内

お祀りしている神様

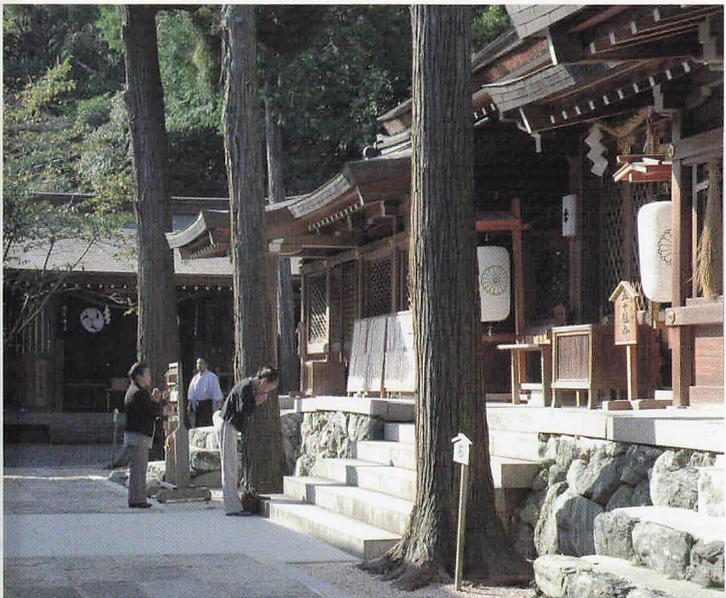
五十猛命 (大屋毘古神)
 大屋津比売命
 都麻津比売命

境内社

氣生神社 五十猛命の荒魂
 祇園神社 須佐男命 天照皇大神 埴安比売命
 蛭子神社 蛭子大神(氏子地区内の二十二社の神々)
 榊間戸神社 榊間戸神 豊磐間戸神
 御井社 彌都波能売神 御井神

境外社

丹生神社 天照皇大神 丹生津彦命 丹生津姫命
 三生神社 五十猛命 大屋津姫命 都麻津姫命



ご鎮座の由来と沿革

伊太祁曾神社についての具体的な年号の初見は「続日本紀」の文武天皇大宝二年(西暦七〇二年)です。神代のごはわかりませんが、伊太祁曾神社が現在の社地に静まります以前には、日前神宮・国懸神宮(通称日前宮)の社地にお祀りされていました。日前宮のご鎮座が垂仁天皇十六年と伝えられていますので、その頃に山東(現在の伊太祈曾)に遷座せられたようです。しかしその場所は現在の社殿のある場所ではなく、南東に五〇〇mほど離れた「亥の森」と呼ばれる所でした。



亥の森 (三生神社)



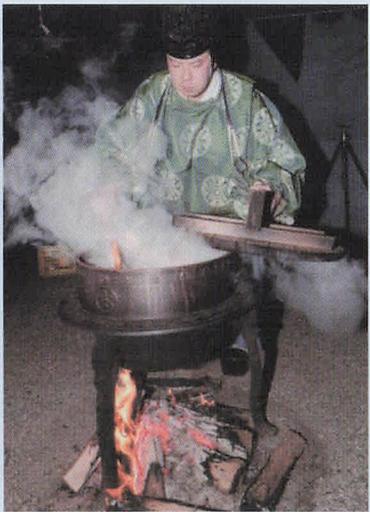
奥宮 (丹生神社)

亥の森は旧社地として、小さな祠を祀っており毎年旧曆十月初亥日に「亥の森祭」が執り行われます。「寛永記」には「伊太祁曾明神ハ和銅六年十月初亥ノ日当所に遷り給フ」と記されており、現在の社地への鎮座は和銅六年(西暦七一三年)ということになります。

延喜式神名帳に所載の神社(式内社)で、明神大・月次・新嘗・相嘗に預かると記載されており、平安期には朝廷の崇敬が篤い大社であったことがわかります。紀伊国(木国)の一之宮として朝野の崇敬を受け、明治十八年には国幣中社に列格し、大正七年には官幣中社に昇格しています。

昭和九年の台風により社殿が甚だしく損壊しましたが、畏くも御内帑金ご下賜により内務省直轄工事で復興に着手し、昭和十二年三月に竣工しています。以後、屋根の葺替工事、常盤殿の改修、ときわ山造園、神池改修等の境内整備を行ってきました。

平成十四年(西暦二〇〇二年)は伊太祁曾神社の初見記事である大宝二年(西暦七〇二年)より数えて千三百年にあたり、畏くも天皇陛下より幣帛料を頂戴し、ご鎮座千三百年大祭を執り行い、その記念として、本殿屋根葺き替えを始め割拝殿の改修など境内の整備を行いました。



卯杖祭(粥占いの神事) 一月十四日

米と餅、小豆で粥を炊き、長さ一尺程の竹を束ねてその中に沈め祈願の後に引き上げ、竹筒の中の粥米の入り具合でお米と農作物の豊作を占います。

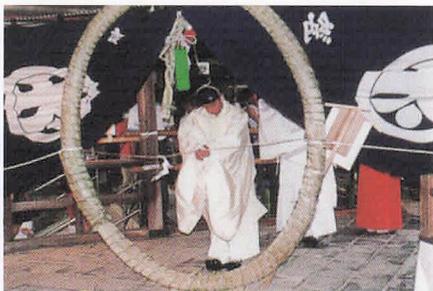
「木の神」樹木の神・緑化の神としてのご神徳

日本最古の歴史書である『日本書紀』には、五十猛命は父神である須佐男命と共に高天原より最初に新羅国(韓国)に天下つたと記されています。この時、須佐男命は木種を持っておりましたが、その地には植えずにおおやま(大八州国(日本))に持ち来り、息子である五十猛命に、大八州国にその木種を撒き施すように命じました。

五十猛命は、妹神である大屋津姫命・都麻津姫命と共に、日本の国中に木種を播き、最後に現在の和歌山県にお鎮まりになったということです(木の国)。伊太祁曾神社が木の神様を祀る神社として広く知られているのはそのためです。

「いのち神」厄よけ・病難救済の御神徳

大国主神が八上比売をめぐって八十神から命をねらわれた時に、母神の刺国若比売が「このままではあなたは八十神に殺されてしまいます。木国の大屋毘古神(五十猛命)のところへ逃げなさい」と急がせます。大国主神は八十神に追われ矢を射かけられますが、大屋毘古神の助言により木の俣をくぐりうまく逃れて助かります。(古事記神代卷上) このように大国主神のいのちを救った神話から「いのち神」の信仰が生まれ、病氣平癒や厄除けの災難除け祈願に多くの方が参拝されます。



茅輪祭(わくぐり) 7月30日・31日



神輿渡御 10月15日

「浮宝の神」大漁・航海安全のご神徳

須佐男命は、「韓郷之嶋(中国大陸)には金銀の財宝があるが、吾兒所御国(日本)には浮宝(船)がなければ運ぶ事ができないので良くない」と言われ、鬚髯を抜くと杉になり、眉毛は楠となりました。そして「杉と樟は船の材に檜は社殿を造る材に、椈は棺桶に利用しなさい」と言われました。

当時の交通手段は、陸上は徒歩、海上は船によるものでした。大量輸送や食物の確保(漁業)にも船は大切にされ、「浮宝」と呼ばれました。

このことから多くの人が航海安全や大漁を祈り当社にお参りするようになったのです。今日でも、大阪湾から紀伊水道沿岸の漁師の方々の信仰は篤く、お参りが続いています。時代が下り、自動車が普及すると、陸上交通の神としても崇められ、交通安全の祈願にも多く参拝されます。

伊太祁曾神社アプリは様々なお知らせ等の情報をいち早くお届けします。もっと身近に伊太祁曾神社をご利用下さい!!
 ダウンロードはこちら↓

